

地域訪問調査の結果概要

新潟市の生涯学習の現状について

市内8区へ社会教育委員が訪問し、聞き取り調査を実施した。

調査内容

- 住民の学びの実態と今後の方向
 - ・ 学習内容（特色ある事業）
 - ・ グループ・サークル活動
 - ・ 施設利用
- 社会活動への取り組み（社会貢献・ボランティア活動等）
 - ・ 「地域と学校パートナーシップ事業」について
- 計画に対する要望事項
- その他

出席者

- 公民館運営審議会委員
- 公民館活動協力員
- 公民館利用者，利用団体連絡協議会
- ボランティア団体
- 地域教育コーディネーター
- 区政策企画課職員，公民館職員

実施期間・会場

- 平成20年6月2日（月）～平成20年7月10日（木）までの間の8日間。
各区の公民館1ヶ所で概ね2時間実施。

訪問調査 北区

面積 107.92 平方キロメートル
世帯数 26,272 世帯
人口 78,259 人
人口密度 725.16 人/平方キロメートル
平成 20 年 (4 月末日)



日 時	平成 20 年 6 月 25 日 (水) 14 時～16 時 00 分
場 所	豊栄地区公民館
出 席 者	豊栄地区公民館運営審議会委員……………1 人 北地区公民館活動協力員……………1 人 地域教育コーディネーター……………2 人 公民館利用者(豊栄地区, 北地区)……………4 人 北区政策企画課職員……………1 人 公民館職員(豊栄地区, 北地区)……………4 人
訪問委員	中村委員・伊井委員・南 委員

旧豊栄市に属していた豊栄地区と、旧新潟市に属していた北地区にわけて特色をみることができる。豊栄地区は古くからの住民と新興住宅地の住民との融和と交流が盛んで、地域を大事にしようと考えている。北地区は学校を上手く利用し新しいリーダーを育てようとしている。

➤ 特色ある事業

豊栄地区では、地域づくり講座として、「音楽文化」(木崎)、「よさこいソーラン」(長浦)、「岡方さがし隊」(岡方)、「新井郷川でクリーン作戦」(葛塚)、「早通地域結び実行委員会」(早通)を実施した。また、旧豊栄市の文化的事業(成人式から区民茶会や民謡流しに至るまでの)全てを公民館事業として行っている。

北地区では、「濁川コミュニティART」(コミュニティ協議会と共催。新しい世代の取り込みをねらい大学・地元・公民館の 3 者で共同作業している)や、「これが北地区の地域づくりだ」(北新潟商工振興会青年部と共催)などで地域を知る地元の人たちと事業に取り組んでいる。また、「New リーダー養成講座」では、阿賀野川ござれや花火をテーマにして、自立した地域づくりリーダーの養成講座を行っている。東港周辺、南浜・太郎代地区の安全防犯を保ち、外国人との関係改善と国際交流をより推進する地域として生まれ変わるため、国際化の一環として「ロシア語初級会話」も開催している。

➤ グループ・サークル活動, 施設利用

参加者の平均年齢が高く、グループ間の交流機会も少ない。公民館には、情報交換の場の設定(HPの掲示板のようなものも一つの手段と考える)や、地域の人をつなぐ役割が求められている。

新潟市の中心部に比べて交通機関が便利でないため、施設利用にはそれなりの配慮が必要である。豊栄地区と北地区の公民館を循環するバスの運行についての提案や、高齢者が生涯学習を継続するための交通網の整備を望む声などが寄せられている。

小・中学生が集まれる児童館や児童センターが望まれている一方、学校の空き教室を使った高齢者の居場所、子どもと高齢者とのふれあいセンターなどの整備が求められている。

➤ 社会活動への取組

地域教育コーディネーターは、地域住民が少なく、ボランティア探しに苦慮しているが、これまでの活動で学校も地域も変わってきたと感じている。一方で、公民館が学校に入っていくことは難しいという意見もあり、学校教職員という人材を地域で活用する仕組みづくり、体制づくりが求められている。運動会や海岸清掃、葛塚での「蛍の夕べ」など、学校が地域に入ってきているという事例も紹介された。

➤ 生涯学習推進基本計画に対する要望, その他

事業予算の確保が難しくなっており、人員削減、指定管理者制度の問題などが出てくると思うが、公民館の職員には、3～4 年で交代するのではなく公民館の顔になってほしい。

訪問調査 東区

面積 38.77 平方キロメートル
世帯数 55,366 世帯
人口 139,109 人
人口密度 3,588.06 人/平方キロメートル
平成 20 年 (4 月末日)



日 時	平成 20 年 7 月 10 日 (木) 14 時 00 分～16 時 10 分
場 所	中地区公民館
出 席 者	中地区公民館運営審議会委員……………3 人 石山地区公民館活動協力員……………3 人 地域教育コーディネーター……………1 人 東区政策企画課職員……………1 人 公民館職員(中地区, 石山地区)……………4 人
訪問委員	中村委員・真島委員・伊井委員

東区は子どもの多い地域であると同時に高齢者も多い。中地区, 石山地区ともに, 公民館の子育てサロンや家庭教育学級の充実を図り人気がある。

➤ 特色ある事業

中地区公民館では, 新たな企画として東区全体の子育てサポーターを対象とした「ボランティア養成講座」に取り組んでいる。「親子わくわくランド」や子育てサロン「ひだまり」は, ボランティアや保健師等との協力のもと地域と連携して実施している。

石山地区公民館では, 社会福祉協議会や地域保健福祉センターとの実行委員会方式で「理想のご近所づきあいを考える会」を開催している。「三世代交流の集い」(世代間交流の集いとして 8 年継続)は, コミュニティ協議会と共催で実施しているが, 公民館で開催するにはスペースが狭くなっており, より地域に密着した形で実施するため各地区への出前事業としてコミュニティ協議会主体の事業とすることも検討されている。

いずれの館も講座受講生の多くが, 受講後に学習成果の社会還元として公民館活動に参画している。しかし, マンネリ化に配慮しても, メンバーの固定化など課題がある。区としては, 団塊の世代のボランティアを欲しており, 団塊の世代を取り込むことが今後の課題である。

➤ グループ・サークル活動, 施設利用

メンバーが高齢化し, サークル数が減少している。石山地区では, 利用団体連絡協議会が運営が軌道にのるまで面倒をみたり, 新企画「公民館へ行ってみよう! Day」を開催するなどの取組を行っている。

全市的に, 学校開放をもっと自由に地域の裁量に任せてはどうか, という意見がある一方で, 地域の器楽クラブの事例で, 地域や学校の協力を得るのがなかなか難しいという具体例も挙がっている。東区には美術館がないため合同展を催せる会場を望む意見も寄せられた。

参加者の活動時間と利用時間の整合, 手続き面(名簿提出の要・不要)などから, 公民館は利用しづらくシルバーピア石山の利用が自由で使い易いという意見も出た。

➤ 社会活動への取組

学・社・民の融合による教育の実現について, 学校は敷居が高く, また先生が忙しいため学校側の受け入れが難しいようだ。保護者ありきであるが, 地域の人が手助けすることも大事である。実践的なボランティアが望まれており, 地域に根ざした活動には予算が必要との意見が出ていた。

➤ 生涯学習推進基本計画に対する要望, その他

公民館と区(行政担当)の連携は, まちづくり計画や特色ある区づくり事業で進んでおり, いっそうの連携が期待されている。地域活動への一律の支援ではなく, その地域に合った助成などの体制づくりが望まれている。役割分担は今後の課題である。

訪問調査 中央区

面積 37.42 平方キロメートル
世帯数 78,580 世帯
人口 172,653 人
人口密度 4,613.92 人/平方キロメートル
平成 20 年(4 月末日)



日 時	平成 20 年 7 月 8 日(火)13 時 55 分～16 時 15 分
場 所	生涯学習センター
出 席 者	生涯学習センター・ボランティア……………1 人 鳥屋野地区公民館活動協力員……………1 人 地域教育コーディネーター……………2 人 公民館利用者(中央, 関屋地区)……………3 人 公民館職員(中央, 鳥屋野地区, 東地区, 関屋地区)…7 人
訪問委員	齊藤委員・長谷川委員・五十嵐委員

生涯学習センターとしての一面も持つ中央公民館を含め地区公民館 4 館が工夫した事業展開をしている。

➤ 特色ある事業

関屋地区では、「地域を知ろう」と題し、映像や石碑など、関屋や新潟に関することを学び、学校の総合学習とも連携している。「関屋モーニングサロン」は現代社会の課題について企画委員会が自主的に活動を行っている。「子育てネットまつぼっくり」は、親の交流と情報交換の場として子育てサポーターと連携した事業を運営している。

東地区では、「家庭教育学習会」を出前型として地域小学校を会場に開催したり、「ぬったり地域楽」ではマップづくりを進め、地域を知り、地域を愛する運動を年 24 回程度実施している。

鳥屋野地区では、乳児期、幼児期、児童期それぞれの家庭教育学級を開催し、他地区からの参加者も多い。世代間交流事業「夏祭 in とやの」は、若者から高齢者までの交流を進めている。

中央公民館では、公民館組織の中央館としての機能をはたす一方、生涯学習センター事業とのすみわけが難しい。中央地区の公民館としての機能が弱いという問題があげられるなか、小・中学生が大畑少年センターに宿泊しながら学校に通う「合宿通学」や、昭和 52 年から続いている「憲法講座」、団塊の世代を中心に生きがい対策と地域の活動支援として実施する「アクティブ・シニアフォローアップ講座」を行っている。

生涯学習センターは、学習相談窓口をボランティアで運営している。ボランティア活動の継続には、色々な考えの人が集まり、互いの立場を理解しあって、画一的な考えを押し付けないことが大切である。

➤ グループ・サークル活動、施設利用

公民館の有料化について、施設のバリアフリー化は不可避であり、誰もが使える施設整備のためであれば理解も深まるのではないかという意見が出る一方で、生涯学習センターのように施設面で恵まれていても、バスを利用し、使用料を払ってまで中央館を使うだろうか、減免以外の制度も必要ではないかとの意見も寄せられた。

➤ 社会活動への取組

地域教育コーディネーターからは、様々な部署で把握している人材リストをもっとPRするよう求められた。市立女池小学校では、地域、学校それぞれのニーズの事前調査を丁寧に行い、地域の特産品である女池菜や料理などに取組み、今後は外国語学習やスポーツ活動への地域の協力体制づくりを検討している。

また、中学校区単位の青少年育成協議会と、小学校区単位のコミュニティ協議会の両方について、活動の方向などの整理も必要との意見が寄せられた。

➤ 生涯学習推進基本計画に対する要望、その他

市の事業には楽しいものが少ないという指摘もあり、高齢化を良いチャンスと捉え、かつての高齢者対象事業「寿大学」を発展させた「寿大学院」の創設が提案された。

訪問調査 江南区

面積 75.46 平方キロメートル
世帯数 23,575 世帯
人口 68,878 人
人口密度 912.77 人/平方キロメートル
平成 20 年 (4 月末日)



日 時	平成20年7月2日(水)14時05分～16時00分
場 所	亀田市民会館
出 席 者	亀田地区公民館運営審議会委員……………2人 曾野木地区公民館活動協力員……………1人 横越地区公民館活動協力員……………1人 地域教育コーディネーター……………2人 公民館利用者(大江山)……………1人 公民館職員(亀田地区, 曾野木地区, 横越地区)…4人
訪問委員	中村委員・南 委員・笠原委員

都市インフラ整備が進んでいる亀田地区と、農村部の大江山地区や曾野木地区、合併前から独自の地域事業を展開している横越地区、それぞれの地域特性が顕著なエリアである。

➤ 特色ある事業

亀田地区は、若い世代が増え核家族化が進んでいる。家庭教育学級や子育て支援に取り組むほか、「わんぱく教室」など少年体験活動を行っている。年々子どもの参加者が減っており、大江山地区では児童数も少なく、苦慮している。

曾野木市民学級は、実行委員会を組織し、地域密着や社会的に旬の事柄をテーマに運営している。公民館利用者は他の地域から来る人も多く、地域内からの参加は、住んでいる場所と公民館との距離により影響が出ている。また、両川地区の「子ども料理教室」についても、地域外からの参加者も多い。

横越地区は、合併以前から、学校教育と社会教育が連携してきた地域で、地区公民館とは別に、独自の「地域公民館制度」により9ヶ所ある地域公民館(各地域にある施設:農村改善センターやコミュニティセンター, 旧校舎など)で、公民館事業を行っている。この事業で地域コミュニティを維持してきた。また、6ヶ所ある「子どもセンター」では、地域の集会所などを利用して子どもを育てるという伝統が根付いている。特に高齢者や子どもには身近な施設が大切で、新しい公民館が建設されても、こうした地域の活動拠点は残してほしいとの意見が寄せられた。

➤ グループ・サークル事業, 施設利用

亀田地区の高齢者の福寿大学は、30数年前に公民館で誕生し、平成5年からは公民館の支援を受け自主グループ化となり、子ども体験活動への協力や福祉施設へのボランティア活動を行っている。また、曾野木地区のグループ「七味の会」では、世代間交流や手作り弁当を高齢者宅へ宅配している。大江山地区では、活動に参加する人が少なく活動が成立しにくくなっている。

亀田地区公民館の移転・新築に対しては、高齢者は移動手段の確保、交通の便に不安があり、現在の施設を分館として継続して利用できるよう望む声が寄せられた。

➤ 社会活動への取組

地域教育コーディネーターから、学校は敷居が高く、また、地域の人は遠慮がちでコーディネートがうまくいかないことがあるという意見が出ていた。地域が学校に入っていくという形態だけではなく、先生方にもっと地域貢献活動をするよう教育委員会が働きかけるよう提案された。また、公民館での学びが社会貢献活動として外に出て行かない状況にあり、学んだことを地域にどう還元するかが課題とされている。

➤ 生涯学習推進基本計画に対して, その他

公民館を利用していない人、また、子どもへのアピールという視点で広報のあり方に工夫が必要である。

「ほんぽーと」の利用券発行手続きを子どもでも簡単にできるようにしてほしい、「おはよう朝ごはん運動」を食育として位置付け継続していきたい、ふれあいスクールの参加者が親の事情(送迎等)で減少している、「子育てサロン」の継続を区との連携で考えたいなど、子どもに関する意見が多く寄せられた。

訪問調査 秋葉区

面積 95.38 平方キロメートル
世帯数 26,559 世帯
人口 78,448 人
人口密度 822.48 人/平方キロメートル
平成 20 年 (4 月末日)



日 時	平成 20 年 6 月 16 日 (月) 14 時～16 時 00 分
場 所	新津地区公民館
出 席 者	新津地区公民館運営審議会委員……………6 人 小須戸地区公民館活動協力員……………4 人 地域教育コーディネーター……………1 人 公民館職員(新津地区, 小須戸地区)……………4 人
訪問委員	内田委員 笠原委員

新津地区と小須戸地区からなる。公民館の運営審議会が無理に一つにさせられたという感じがあり、違和感が残っている。「秋葉区市民大学」や「秋葉区成人式」など、区の一体感の醸成をねらいとした事業を実施している。

➤ 特色ある事業

いずれの地区も広報活動が盛んで、秋葉区市民大学は、地域の特色(鉄道や、にいつ丘陵など)を活かした講座の募集チラシを年 2 回、新聞折込を通じて区の全世帯へ配布している。コミュニティ放送(エフエム新津)を利用した情報発信も特徴の一つである。小須戸地区では、花と緑を中心に事業を展開している。公民館報を毎月区内へ全戸配布し、平成 20 年 6 月現在で 642 号を数える。また、毎年、小須戸地区公民館で活動しているサークルの紹介等を行う「生涯学習フェスティバル」もある。小須戸地区で 25 年目を迎える新津南高校の公開講座では、高校教員が講師を務めている。

➤ グループ・サークル活動, 施設利用

新津地区では、公民館に登録するのではなく、「新津地域学園」に登録して区内の施設を利用している。日本画・洋画・版画・書道・写真・陶芸・囲碁などの「公民館教養講座」を、自主サークルに移行できないか検討している。自主グループが、学校教育への支援活動に関わる際には、行政から何らかの支援が望まれている。

➤ 社会貢献活動への取組

「地域と学校パートナーシップ事業」の実施校の先生が、時間外に校区の人を対象にパソコンを教えたり、専門的な知識や資格はないが、ノウハウを持つ市民がパソコンの初心者講座の講師をしている事例などが紹介された。

講座で得たものを自己で完結するのではなく、もっと人々に伝えたいという思いに対し、保育講座受講後に保育に関する活動グループを立ち上げた例など、講座の内容によって、その後の自主活動に結びつけやすいものと、そうでないものがあるとの意見が出ていた。また、ボランティア養成を目的とした事業であれば、受講後の自主活動に結びつけやすいが、ボランティアという言葉を出すと参加申込が減少する。

➤ 生涯学習推進基本計画に対する要望, その他

広報活動が盛んでも、講座の受講者は、毎年大体同じ顔ぶれで、新しい人が入ってこない。働いている人に配慮して、参加できる曜日・時間に講座を設定したり、講座の様子をビデオに収めておくなどの提案が出ていた。

地域コミュニティや商工振興会の青年部など、各団体が「里山」をテーマにした活動を行っていたり、公民館や新津図書館、新津美術館が、それぞれバラバラに講座を開いている。区で公民館の事業計画を作成する際には、調整が必要との意見が寄せられた。また、区バスの活用について、本数が少ないため、公民館の事業や校外学習などでの活用も検討するが難しいとの話もあった。

また、公民館職員が施設の貸し出しや体育館の貸し出し業務に忙しく、公民館事業にあたる実数が減っている。

訪問調査 南区

面積 100.83 平方キロメートル
世帯数 14,298 世帯
人口 47,986 人
人口密度 475.91 人/平方キロメートル
平成 20 年 (4 月末日)



日 時	平成 20 年 6 月 24 日 (火) 14 時 00 分～16 時 00 分
場 所	白根学習館
出席者	白根地区公民館運営審議会委員……………3 人 味方地区公民館活動協力員……………2 人 月潟地区公民館活動協力員……………1 人 地域教育コーディネーター……………1 人 公民館利用者(白根地区)……………2 人 公民館職員(白根地区, 味方地区, 月潟地区)…4 人
訪問委員	齊藤委員・福島委員・長谷川委員

南区は凧合戦と角兵衛獅子の里である。この伝統文化の継承をどのようにしていくかが大事である。いずれの地区も、子どもの体験活動を大切に考え、様々な体験教室等を提供している。

➤ 特色ある事業

白根地区では、子どもの体験学習を大切にして「凧合戦」を郷土の文化継承事業として、学校とも連携して取り組んでいる。成人事業としては郷土の工芸を守る取組として「白根絞り」がある。

味方地区でも、子ども対象の凧合戦への取組と、囲碁・将棋・ひょうたん作りなど多様な体験教室を行っている。

月潟地区では、合併後に「こども大凧合戦」を始めたが、もともと地元にあった風習でないため、定着させるには指導者の育成や資金面での工夫など課題も多い。

➤ グループ・サークル活動, 施設利用

白根絞りのサークル「ふきのとう」では、地元中学校での講座も行っている。新しい会員を受け入れるには、より広い活動場所を確保する必要がある。しろね陶芸グループ連絡協議会は、7つのグループで協議会を作り、互いに調整して活動している。「しろね市民大学」にはおよそ 230 人が参加しているが、グループが固定化し、成果の社会還元が図りにくいところがある。月潟地区では、凧合戦導入によりグループ数が増えている。

施設の有料化については、原則有料でも、減免などでの臨機応変さを望む意見が寄せられた。有料化になると、存続できないグループが出てくるかもしれない。施設数は、区として整っていると思うが、排水などの設備面を整備してもらいたいなどの意見が挙げられた。学校利用の例として、地域の若者が小学校でコンピューターを教えるといった取組に成果があったほか、スポーツやパソコン教室などで中学校施設が活用され始めている。

➤ 社会活動への取組

単発的なものやイベント的な働きかけに反応はあるが、継続的な地域と学校との連携や、地域の現状について地域住民が意識を共有することには課題がある。味方小学校の地域教育コーディネーターからは、地域の人は協力的で、100 名がボランティア登録しているとの話もあり、公民館・青少年育成協議会・PTA・親父の会・学校等が連携して「星を観る会」を開催している。学校側が忙しすぎて打合せなどを行う時間がとれない、区ごとに地域教育コーディネーター会議を開催して欲しいなどの意見も出ていた。

➤ 生涯学習推進基本計画に対して, その他

公民館は、地域の人たちの学習、人材育成の場として大切である。手を掛けなくなったら、簡単に崩れてしまうものなので危機感を持って大事にしていきたい。また、公民館は子どもたちの活動の場としても重要で、コミュニティ協議会と公民館の持っているノウハウが地域をつくると考えており、地域づくりや人材育成のための場づくりに公民館は大事であるという意見が出ていた。

地域には、それぞれ異なった背景がある。社会教育の方向性も、全市一律、画一的な制度の導入は避けて、地域らしさを生かしてほしい。

訪問調査 西区

面積 93.8 平方キロメートル
世帯数 61,352 世帯
人口 155,488 人
人口密度 1,657.48 人/平方キロメートル
平成 20 年 (4 月末日)



日 時	平成 20 年 6 月 12 日 (木) 14 時 00 分～16 時 05 分
場 所	坂井輪地区公民館
出 席 者	坂井輪地区公民館運営審議会委員……………2 人 西地区公民館活動協力員……………人 黒埼地区公民館活動協力員……………2 人 小針青山公民館活動協力員……………1 人 公民館利用者(小針青山)……………1 人 公民館職員(坂井輪, 西, 黒埼, 小針青山)……………4 人
訪問委員	齊藤委員・新藤委員・福島委員

大学や地域との連携事業で効果をあげている。一方、公民館の利用者が固定化し、サークル活動に新しい人が入ってこない状況は、いずれの館でも共通した課題となっている。

➤ 特色ある事業

西地区での「まなび屋」事業は新潟大学教育学部と連携し、学生が自ら企画運営している。

黒埼地区では、立仏ふれあい協議会との連携事業の具体例として、黒埼地域学「もっと！安心安全まちづくり」が紹介された。この事業は、公民館とコミュニティー協議会とが共催で子どもたちを巻き込んで実施したもので、事業内容を「地域学勉強ニュース」として黒埼地区の全世帯に配付して注意を喚起するとともに、安全性に問題のある箇所は区に対策を要望し、改善が図られた。今回は授業との調整が付かず学校との共催はできなかったが、今後も学校と一緒に事業展開を望むという意見が出ていた。

➤ グループ・サークル活動, 施設利用

仲間作りが固定化し新しい人が入りにくい。マンネリ化, 高齢化が進んでいる。利用団体連絡協議会の役員も固定化している。新しいグループや講師が必要ではないか。毎月特定の日を「公民館公開の日」として一般公開し, 自由参加できるようにしてはという提案も出た。

施設については, 規模が利用者数, グループ数に対応できず, 使いたい人が使えない状況である。

➤ 社会活動への取組

運動会前日の美化活動や遠足, 創立記念日, 音楽会への参加など, 学校との連携の紹介のほか, 病院やデイサービスセンターなどの施設でのボランティア活動の紹介もあった。

人材発掘としては, 声かけの難しさがあり, 適切な指導者の発掘と活用(学校側の態勢を含め)が課題とされている。

学・社・民の融合による教育について, 学校が回覧板で取組の様子を伝えるなど, 周知に努めている。

➤ 生涯学習推進基本計画に対して, その他

団塊世代への対応と, 中高年の居場所について盛り込むことが要望された。

公民館については, コーディネート機能, 人づくり機能を盛り込み, 個人学習でなく集団学習の成果を社会に還元し, 単なる人材登録だけでなく, 地域の様々な情報を取りまとめ, 学びの方法など地域の情報センターとしての機能・役割を持つべきとの意見が出された。また, そのためには, 職員・スタッフの研修や, 系統立てた人材育成が大切である。

また, 小針・青山公民館は, 人口約4万人の地域であり, 利用が非常に多いが, 分館の位置付けであることから, 地区館への格上げについて再検討を求める意見が出ていた。

訪問調査 西蒲区

面積 176.51 平方キロメートル
世帯数 18,846 世帯
人口 63,157 人
人口密度 357.81 人/平方キロメートル
平成 20 年 (4 月末日)



日 時	平成 20 年 6 月 2 日(月)9 時 30 分～12 時 00 分
場 所	巻地区公民館
出 席 者	巻地区公民館運営審議会委員……………2 人 岩室地区公民館活動協力員……………1 人 西川地区公民館活動協力員……………1 人 潟東地区公民館活動協力員……………1 人 中之口地区公民館活動協力員……………1 人 地域教育コーディネーター……………2 人 公民館職員(巻, 岩室, 西川, 潟東, 中之口)……7 人
訪問委員	五十嵐委員・内田委員・真島委員

西蒲区は 5 町村が合併し、全市の 4 分の 1 にあたる 176 km²の面積を有する。文化や歴史が異なる中で、公民館活動を展開しており、このような地域性を計画に反映することが望まれている。

➤ 特色ある事業

巻地区では「鯛車復活プロジェクト」、岩室地区では「ホテルと野外コンサート」事業や「海・山・食」をテーマにした地域学が好評を得ている。また、西川地区は、土曜日の子どもの居場所づくりに「子どもセンターキッズクラブ」を行ったり、県立青少年研修センターで 2 泊 3 日の「ふれあい合宿」を行うなど、子ども対象の事業に力を入れている。潟東地区は、「お祭り広場」や「どろんこカップ」、60 歳以上を対象にした「青空学級」を年 6 回実施しており、中之口地区では、従前からの「学社連携会議」に、平成 20 年 4 月から「民」の視点で活動協力員も参画している。

➤ グループ・サークル活動、施設利用

高齢化が進み指導者が減ってきていることや、マンネリ化で参加者が少ないことに苦慮している。団塊世代(特に男性)を取り込み、職業経験を生かして、講座運営を支援してほしいという声が寄せられた。

公民館は、ほぼ有効に使われている。光熱水費の実費徴収など、青少年団体には負担が大きいのではとの意見が寄せられた。

➤ 社会活動への取組

学校の現状として、先生方が忙しく、コミュニケーションもままならない。事業予算については、各校均一でなく学校規模に応じた配分が望まれている。学校教育と社会教育の間で、事業の取り合いや競合が起きないように整理が必要である。

ボランティアは、来てもらうだけでなく、報告や会話をする場があれば生きがいになる。運営ボランティア育成のための予算措置が求められた。

➤ 生涯学習推進基本計画に対して、その他

西蒲区として、統一したテーマは特にないが、公民館運営審議会での情報の共有が区全体の特色ある事業につながることを望む声と、新潟市の食料基地として、「食育」の目線もテーマの一つとなりうるとの意見が出ていた。巻地区での市民大学では「食と農」で開催し、食育に関しては先駆的存在との自負もある。

合併により他地区から人材を紹介してもらうことができたり、従来のイベントに他地区からの参加者が増えるなどのメリットがある一方、公民館の職員が少なくなり、不便になっている。